

研究・調査報告書

報告書番号	担当
214	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Predictors of Drinking During Pregnancy : A Systematic Review 妊娠中の飲酒の予測因子：システマティックレビュー	
執筆者	
Skagerstróm J, Chang G, Nilsen P.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Womens Health (Larchmt). 2011 Jun;20(6):901-13.	
キーワード	
飲酒 妊娠中 システマティックレビュー	
要 旨	
目的： 多くの妊婦は妊娠中の飲酒に関する公衆衛生学的なキャンペーンや医学的なレコメンデーションに関わらず飲酒を続けている。このレビューは、妊娠中の飲酒の予測因子について、より効率的な予防への長期的な視点で検討した。	
方法： 複数のデータベースから関連する文献についての検索を行った。1999年から2009年までの査読がある科学雑誌に英語で公表された文献のうち、ポピュレーションベースの（ハイリスクの飲酒者だけに焦点をあてていない）研究で、妊娠から出産までの一連の流れの中でおこったもの、妊娠期間中のデータを収集したもの（期間は1999年から2009年までの期間）、何らかの飲酒の予測因子を調査したもの。	
結果： 2002年から2009年に上記の基準を満たした14の研究が公表された。14の研究は、アメリカが4、ヨーロッパが4、オーストラリアとニュージーランドが3、日本が2、ウガンダが1であった。妊娠中のアルコールの予測因子で、最も明確なものは、妊娠前の飲酒消費量、虐待や暴力を受けていることであった。一方、妊娠中の飲酒の確立していない予測因子としては、高収入や社会的地位と正の依存性、失業や結婚状況、教育レベルであった。	
結論： 妊娠前のアルコール消費量（例えていうなら、日常の飲酒量と回数）、妊娠前の虐待や暴力は、妊娠中の飲酒と強く関係していた。妊娠中の飲酒のリスクのある女性をより発見するには、これらのファクターを考慮すべきである。	